

答申添付資料（案）

○報告書全般について

- ・教育委員会が行っている多くの事業について、結果や成果を数値化することが難しいものもある中で、具体的な文章表記など分かりやすく、説得力のある報告書のある内容になっている。
- ・教育振興基本計画の体系に基づき、様々な施策を通じて、「自立・共生・創造」を目指していることがよくわかる内容になっている。
- ・取組実績に過去5年間の推移が掲載されており、これまでの状況が分かるとともに、今後の方向性が見え、信頼感や期待感につながる内容になっている。
- ・担当課の評価が厳しいのか、◎がとても少ないと感じた。
- ・全体を通して、文章表現を比較されることが考えられるので、特に取組実績の数値がなく、抽象的な表現となっている取組については注意が必要である。
- ・一つ一つの取組について、PDCA（検証・改善）サイクルの構造が分かりやすいものになり、最後の評価と今年度の状況は、次年度への期待を抱かせるような作りになっている。
- ・昨年度よりもコンパクトになり、分かりやすくなった。
- ・評価方法が三段階（◎，○，△）となり、結果一覧もあるため、一目でわかりやすいものになっている。
- ・取組実績の数値については、対象となる子どもや高齢者の人数も変化していることから、実際の数字のほか、割合も表示するなどの工夫が必要である。

○報告書の内容について

I 教育委員会の活動に関する点検・評価

- ・会議の公開，会議録の公表，委員も公募による選出があり，透明性が高い。

II 教育委員会の施策に関する点検・評価

基本目標 1 変化する社会を生きる力の育成

施策 1 確かな学力を育む活動の充実

- ・全国学力・学習状況調査の結果について掲載すべきである。
- ・学力向上非常勤講師の配置については、小学校のみならず、中学校における英語や数学などの習熟度別指導での活用も検討すべきである。
- ・新学習指導要領へ対応していくため、引き続き、教員の資質の向上や授業改善の取組の推進などが必要である。
- ・読書活動の充実に向けた取組の推進が必要である。
- ・プログラミング教育の意義や必要性について、学校・保護者がしっかりと理解していく必要がある。
- ・学習習慣の定着について、学校と家庭との連携を充実させていく必要がある。

施策 2 豊かな心を育む教育の推進

- ・こころの相談員やスクールカウンセラーなどの違いを明らかにして、学校や

保護者への周知を図り、効果的な活用が図られる取組を推進していく必要がある。

- ・体験活動等に対する経費補助があると、より効果的な学習活動につながるものとする。
- ・部活動地域支援者については、その配置について学校や保護者から評価を得ていることから、さらなる配置の拡充を推進する一方で、勝利至上主義とならないよう部活動の意義などを十分に理解させる必要がある。

施策3 健やかな体を育む教育の推進

- ・生活習慣や運動習慣の改善については、学校生活だけではなく、日常生活における見直しが重要であり、学校と家庭との連携・協働を進める取組が必要である。
- ・薬物乱用防止教室や性教育については難しい点もあると思うが、児童生徒にとって重要な内容であり、学校と家庭が連携して取り組んでいく必要がある。
- ・学校体育における教員の資質の向上と、授業の充実に向けた専門家等との連携が必要である。
- ・学校給食については、衛生管理の徹底など、できるところから早急に取り組んでいく必要がある。
- ・アレルギー対応食の提供については、今後その対応が増えていくことを考えると、栄養教諭や調理員への負担の増大が危惧される。
- ・安全教育については、学校・地域・家庭が連携して取組を進めていく必要がある。

施策4 幼児教育の充実

- ・民間のこども園等と連携し、子育て相談など保護者の支援につながる取組の充実を図る必要がある。

施策5 多様なニーズに対応した取組の充実

- ・特別支援教育の充実を図るため、専門性を身に付けた教員を配置するとともに、児童生徒の社会における適応性を高める学校外での体験・訓練などの機会の充実を図っていく必要がある。
- ・適応指導教室や相談指導学級の設置による不登校児童生徒への対応は評価できるが、その増加に合わせた対応の見直しが必要である。
- ・学校だけではなく、スクールソーシャルワーカーの活用やフリースクールなどの関係機関と連携した取組を推進していく必要がある。
- ・アフタースクールについては、多くがPTAが主体となり設置されているが、人材の確保が課題であるため、実施主体と連携して広く周知していく必要がある。

基本目標2 地域とともにある学校づくりの推進

施策1 家庭・地域との連携・協働の推進

- ・コミュニティ・スクールの活用促進に向けた教育委員会の指導・助言が必要

である。

施策2 学校における指導体制などの充実

- ・学校教育指導監による経営訪問などにより、学校経営の充実などが図られている。
- ・高等学校では、単位制の特色を生かした教育課程が編成・実施されている。
- ・業務改善については、市教委主導で進められており、教職員の意識改革につながっているなど評価できる。
- ・教員の負担軽減につながる部活動指導員の配置について検討する必要がある。

施策3 学校間の連携・接続

- ・中高一貫教育に向けた取組は、学校運営協議会と合わせて地域と連携して推進する必要がある。
- ・学校図書館を地域に開放することは、非常によい取組である。

基本目標3 函館への愛着や誇りと未来への飛躍する力の育成

施策1 函館への愛着や誇りを育む教育の推進

- ・函館学については、地域の特性を生かした取組となっており、より一層の充実を期待する。
- ・地域行事やボランティア活動への参加は地域の活性化に欠かせないものであり、ボランティア活動を通じて、人のために活動することの素晴らしさや心の充実を感じてもらいたい。
- ・社会科や道徳などにおける郷土や郷土愛に関わる授業を地域の人たちに委ねることにより、地域との連携による郷土愛の醸成につながることを期待される。

施策2 未来へ飛躍する力を育む教育の推進

- ・高等学校での国際理解教育のための地域民間講師の招へいや海外留学事業等は、函館学とともにグローバル・ローカル両面での取組となっており評価できる。
- ・職場体験学習や上級学校説明会など発達段階に応じたキャリア教育の取組を行っており評価できる。
- ・科学技術への関心を高める教育活動の充実については、教員の資質・能力を向上させる取組が中心となっているが、今後は、実際に児童生徒の関心を高める取組に改善する必要がある。

基本目標4 生きがいを創り出す生涯学習の推進

施策1 生涯学習活動の促進

- ・市民が生涯学習活動を継続できるよう、図書館や公民館などの施設の維持管理に努めていく必要がある。
- ・高齢者対象大学については、学んだことを他の場所で生かし社会に役立てることを目標にすることも検討してはどうか。

- ・カルチャーナイトについては、親子がともに文化芸術に触れる貴重な機会であり、新規企画の検討のほか、民間企業やNPO法人等と連携した開催などについて検討していく必要がある。
- ・リーダーバンク事業については、今後につなげていくため、新しい人材の発掘とコーディネーターの養成が必要である。

施策2 社会教育活動の推進

- ・ウィークエンドサークル事業については、特別支援学級に在籍する児童生徒にとって貴重な体験の場であり、今後は民間企業との連携について考えていく必要がある。
- ・家庭教育支援事業については、保護者の学びの推進にとって有用であり、関心も高いことから、函館市PTA連合会としても活用していきたい。

基本目標5 心の豊かさを育む文化芸術の振興

施策1 文化芸術活動の促進・支援

- ・市民文化祭は、気軽に参加でき、グループの目標となっている。
- ・アウトリーチ事業は、心の豊かさが育まれる素晴らしい事業であるが、参加する学校が限られている。今後、取組内容が充実し、児童生徒が鑑賞や体験する機会が増えることを期待したい。
- ・市民の誇りや子どもたちの目標になることから、函館出身の芸術家等が公演等を行えるような支援の仕組みを作してほしい。
- ・数多く開催されるイベント等について、情報不足により参加できないことがないように、魅力を感じる媒体（インターネットやフライヤー）を活用した広報活動が必要である。

施策2 文化遺産の保存・活用と伝統文化の継承

基本目標6 健やかな心身を育むスポーツの振興

施策1 スポーツの振興

- ・少子化や指導者不足の影響で団体スポーツの存続が難しくなっている。
- ・函館マラソンの近年の充実は成果として現れていると思うが、スポーツ＝競技という面が前面に出ると、なかなか参加できない市民もいると思われる。スポーツ＝健康増進としての軽微な運動の促進、例えばウォーキングの推奨や年に1～2回位の函館山登山など、気軽に来れる事も含めて検討する必要がある。
- ・全道大会や全国大会を函館に誘致し、観戦やボランティアスタッフとして大会に参画することにより、競技参加意欲の向上につながると思う。
- ・施設管理者の選定や施設整備など課題はあると思うが、廃校となった学校のグラウンドなどを市内のスポーツクラブやチームに貸すことはできないか。
- ・プロイベントではなく、プロ野球やJ1サッカーなどの公式戦が開催されると、競技スポーツへの関心が更に高まると思う。
- ・近年ではラグビーの競技人気が高まっており、根崎グラウンドなどを利用し

たラグビーの大会や合宿誘致にも注力する必要がある。